

第13回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

推奨実践事例賞

研究校部門

自ら考え、豊かに表現できる児童の育成

～金融・金銭教育の視点を生かして～

東京都・東京都教職員研修センター東京教師養成塾 教授 小林 巧

1. はじめに

私と金銭教育の出会いは、平成17年度、東京都金融広報委員会の依頼を受けて、世田谷区立代沢小学校の校長として、金銭教育の研究実践に取り組んだことである。以来10年あまり、校長を務めた3校で金銭教育研究校の委嘱を受け、金銭教育の研究実践を積み重ねてきた。3校の研究を通して、金銭教育の研究実践は進化してきたことを実感している。

(1) 4年生総合的な学習の時間「下北沢南口商店街にお店をだそう」(世田谷区立代沢小学校)

金融・金銭教育の教材開発を中心にして地元商店街にお店を開く企画会議、市場調査、融資交渉、プレゼンテーション等の授業実践を行った。起業教育に特化した教材を取り入れたことで、校内の教師たちへの金銭教育の理解と教育的な効果が得られた。金銭を教材にした学習活動により、学習意欲や児童の課題を主体的に追究する力が向上し、児童の学ぶ力は、教材によって大きく伸びることを実感した授業実践だった。ただ、研究実践者の高い指導力があっての授業実践だったので、「素晴らしいがまねはできない」との消極的な教師たちの声も聞かれた。学校全体の教育課程に十分に反映されない課題が残った。

(2) 「自ら考え、社会と関わって生きる子供の育成～社会科・生活科～」(世田谷区立松原小学校)

教材に特化した1学級の研究から学校全体の研究に広がるように、世田谷区立松原小学校では、金融・金銭教育の視点を取り入れた社会科・生活科の授業改善に取り組んで、研究主題「自ら考え、社会と関わって生きる子供の育成」の具現化を図ったことは、金融教育が目指す「自立するための力」、「社会と関わる力」の育成にもつながっていくことに、手応えを感じる研究にもなった。教育課程の中に、金融・金銭教育の視点を取り入れた社会科・生活科・道徳の授業改善は、児童や教師の意識改革を図るのに有効だった。また、家庭と連携した取り組みも実践し、金銭教育を進めるのに、保護者の啓発の必要性を痛感した。

(3) 「自ら考え、豊かに表現できる児童の育成～社会科・生活科を通して～」(八王子市立第二小学校)

上記研究主題を受けて、2年間の社会科・生活科の研究実績をもとに、平成26、27年度、3回目の金銭教育研究校の研究実践に取り組んだ。世田谷区立松原小学校で試行し実践した金融・金銭教育の視点を生かした教育改善の理念が、八王子市立第二小学校に受け継がれるようにした。小学校で、児童に社会を見る目・考える力を培うことが、中学校・高等学校の金融・金銭教育の充実につながっていくとの考えを構築できた研究になった。

2. 実践の内容

(1) 研究主題について

八王子市立第二小学校の研究では、授業を展開する上で、児童の思考傾向や学びのスタイルをつかむ、すなわち子供社会の学び合いを大切に、授業改善を進めた。その結果、児童の学習経験や知識の積み上げが少しずつ豊かになり、全体的話合いによって問題解決していく授業が活性化してきた。児童の問題追究スタイルを尊重して、児童の考えをつないでいく第二小学校の授業が構築された。同小の研究主題である「豊かに表現できる」とは、個々の思考が学習課題に向けたものであり、既習事項を生かして、どの児童も自分の考えを表出する、一人一人の考えを組み合わせるともっと多様な、豊かな、独創的な考えが表出することと捉えている。こうした子供社会を大切に、授業の積み上げによって、「自ら考え、豊かに表現できる児童」の成長した姿がたくさん見られるようになった。

そこで、研究のさらなる充実を図るために、平成26年度より金融・金銭教育の視点を授業で取り入れた。金融・金銭教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。金融・金銭教育によって児童には次の二つの力が身に付く。一つは、自立するための力。生計を管理するための基礎的な能力や、将来を見通しながら、より豊かな生き方を実現するため、主体的に考え、工夫し、努力する態度を育む。もう一つは、社会と関わる力。経済や金融のしくみを理解し、社会と自分との関係を自覚して、社会に貢献しようとする態度を育む。この「自立するための力」「社会と関わる力」の育成を意識することは、授業で扱う教材の幅を広げ、社会科・生活科の研究が改善したり、向上したりする。社会参画意識の向上にもつながる金融・金銭教育の視点は、第二小の研究をさらに飛躍させた(資料1)。

(2) 金融・金銭教育の視点を生かした授業改善

金融・金銭教育の視点を六つ設定して、①見通す力、②自己決定力、③社会と関わる力、④勤労意欲、⑤コスト意識・

経済感覚、⑥ものを大切にする力を意識しながら授業実践に取り組んだ。

例えば、社会科では、消費者や生産者の立場など様々な視点から社会的事象について考えることができた。消費者だけではなく生産者の立場からも考えたことで、コストの面からも考える様子が見られるようになり、新しい視点で社会的事象を考えられるようになってきている。

確かな視点をもって取り組むことで、授業の方向性が明確になり、発問や展開の仕方などの授業力の向上につながった。また、新たにこれら6つの視点を取り入れることで、児童一人一人に新しい思考の視点が生まれ、より多面的なものの見方・考え方ができるようになり、思考力や表現力が向上してきた。

(3) 金銭教育を通しての児童の変容

5年生社会科では、日本の産業「農業」「水産業」「工業」の学習を進める際に、年間を通して「金銭教育」の視点を取り入れた。農業や工業に携わる人々の工夫や努力だけではなく、価格や費用の面も含めて産業が成り立っていることや、生産者は工夫や努力をしてよりよい製品を生み出そうとしていることを理解させるようにしてきた。その上で、今後の日本の農業、工業のあるべき姿を具体的に話し合わせた。指導計画では、常に「コスト意識」を柱として計画を立てるようにした。

例えば、農業の学習では、米づくり農家の1年間の様子や米づくりの行程について学習した。学習を進めていく上で、様々な費用に関する映像や資料を用意し、コストについて考えさせてきた。その結果、児童は、米づくりに様々な費用がかかっていることに着目した。そのことで、目先だけの解決策ではなく、「農業の会社を立ち上げて、若い人を集めれば後継者を確保できる」「農家同士が協力し合って、高額な機械を共同で使えば、節約もできるし作業も効率化できる」など、これからの日本の農業について建設的に話し合いを深めることができるようになった。金銭教育を柱にして学習計画を進めてきたことで、児童は金銭に関心をもつようになった。金銭教育の視点をもたせた授業により、「コスト意識・経済感覚」をもって問題解決にあたる児童が増えてきた(資料2)。

2年生生活科では、社会科の素地を培うことや地域の人との関わりを念頭に置き、単元計画を組み立てた。3～4人の小グループで学区の商店にインタビュー活動を行い、分かったことを発表する活動を行った。発表の際には、床地図を使いながら児童にその上を歩かせ、学校との位置関係をつかませるように工夫した。この活動が、3年生での方位の学習に生きていくと考えられる。また、同じグループで同じ商店に2度出向き、インタビュー活動を繰り返し行ったことで、「お店の人が優しく教えてくれた」「ずっと昔からお店を続けてくれている」など、地域の人と自分とのつながりに気づき、「社会と関わる力」が伸びてきた(資料3)。

(4) 金銭教育出前授業の活用

研究授業と並行して、東京都金融広報委員会から金融広報アドバイザー^{しょうへい}を招聘し、金銭教育の出前授業を全学年で実施した。出前授業は、各学年の発達段階に応じた内容になっており、分かりやすく、金銭に関わる学習ができた。子供たちがもらっているお小遣いは、保護者が一生懸命働いて稼いだお金であること、収入には限りがあり、それぞれの使い道が計画されていること、さらにそのお金は保護者が子供たちを信用して預け買い物を任せていることを分かりやすく学ぶことができた。また、児童同士でのお金の貸し借りや「おごり」「おごられ」がいけない理由が分かり、お金の貸し借りは絶対にしてはいけないことを改めて学ぶよい機会となった。授業は、今までは何気なく使っていたお金に対する児童の思いが変化する貴重な1時間となった。また、出前授業を学校公開日に設定したことで、保護者の金銭に対する関心も喚起することができた。金銭教育の推進には、家庭への啓発や保護者との連携が必須である。

【出前授業の感想】

金銭教育の出前授業を受けて、誰でもお金の管理は必要だなあと考えた。今お小遣いをもらってなくてお金の管理が必要でなくても、大人になってから必要になるから覚えておいた方がいいし、今もらっているなら、大人になってからお金の管理が上手になるからどちらにしても必要だと思う。(A児)

3. おわりに

「思考なくして表現なし」の考えから、児童の思考を促す問いや教材選定を工夫し、金銭教育による新しい視点を取り入れた多様なものの見方・考え方を促すなど、子供たちと正面からぶつかり、試行錯誤を繰り返したことで、研究の成果

が実感できた。

(1) 金融・金銭教育から見る授業力の向上

児童に新たな視点をどのように指導していくのか模索し、切磋琢磨しながら実践を積み重ねることで、発問の仕方や授業構成の仕方など、児童に力を付けるための確かな指導力が向上してきた。

(2) 金融・金銭教育から見る思考の深まり

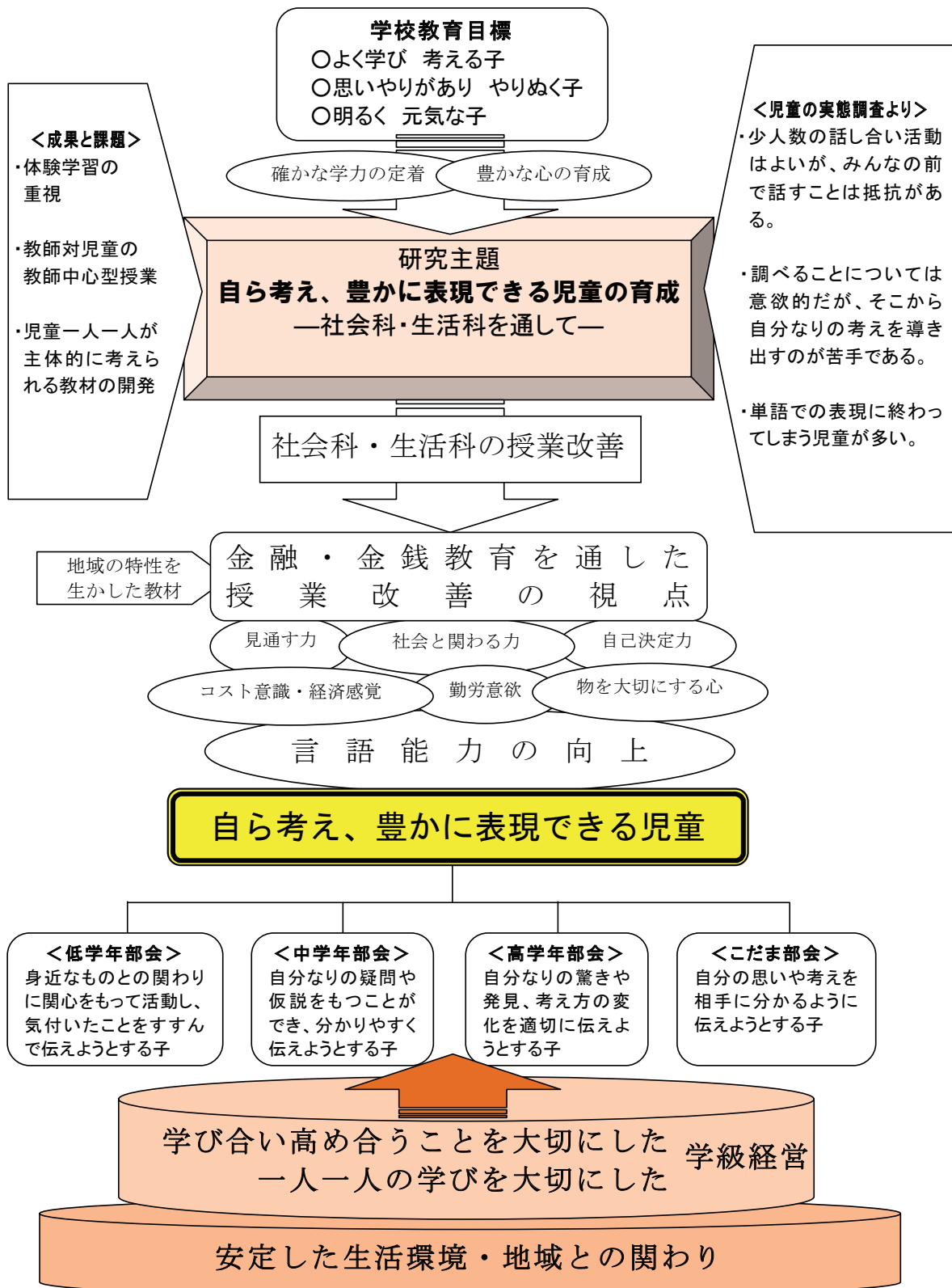
社会科の授業の中でコスト意識や人との関わりなどを考えることは、社会に出た時のため、生きる力を身に付ける上で必要なことである。しかし、これまでの研究では、そのことを中心に考えてきたものは少なかった。第二小学校では、金融・金銭教育という新しい視点を授業の中心に取り入れて児童に思考させてきた。従来にはなかったものの見方・考え方をさせることで、今までは気付かなかったような新たな思考が児童一人一人に生まれた。また、実社会とより密接な視点での思考ということもあり、児童のものの見方・考え方がより深くなった。

(3) 金融・金銭教育から見る意識の違い

金融・金銭教育でコスト意識を育てることは、重要である。しかし、児童の成長過程など金銭感覚に対しての個人差がある。同じ学習問題で同じ土台に立って考えたい時に、この違いは、思考の共有の妨げになる。この違いに配慮して共通の土台に立たせ、考えさせないと思考は深まっていかない。教師として「児童一人一人にどこまで求めていくのか」「何を考えさせていくのか」、今後とも研究を進めていく必要性を感じた。

金融・金銭教育の視点を生かして、児童の「社会を見る目や考える力」を育ててきた。中学校・高等学校で金融教材に出会った時、この見方・考え方の学びが生きるものと確信している。金融・金銭教育の学習における問題解決能力は、小学校で養うことが必須であると考えられる。

資料1 研究構想図



資料2 指導計画（10時間扱い）

5年生社会科「米づくりの盛んな地域」～コスト意識から未来の日本の稲作を考える

| | ねらい | 主な学習活動 | ○評価 ◆支援 ◎金銭教育の視点 |
|---|---------------------------------|---|---|
| つかむ (2) | 米袋の表示を調べることから米づくりの盛んな地域を捉える。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ■家から持ち寄った米袋を使って、生産地、品種、値段などを調べ、気付いたことを話し合う。(1) ・どうしてこんなに値段が違うの。 ・高いほどおいしい米なんだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ◆品種の違いの他に理由はあるのか。米づくりが盛んな地域の共通性は何か考えさせる。 ○米づくりに関心をもっている。 【関心・意欲・態度—①】 |
| | 学習問題、学習計画を作る。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ■家の人は、どんなお米を買っているのだろう。消費者の願いを考える。米作りについて調べたいことを話し合い、学習問題を作る。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ◎お米の値段の違いは、どうして生じるのか。 ◎おいしいお米、安全なお米、安いお米を求めていることに目を向ける。 |
| 米づくり農家の人々は、消費者の願いに応えるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。 | | | |
| 調べる (6) | おいしく、安全で、安いお米をつくるための秘密を探る。(3) | <ul style="list-style-type: none"> ■庄内平野では、なぜ米づくりが盛んなのかを土地や気候などの自然条件から考える。(1) ・低い土地では水が豊かだ。 ■庄内平野では、農家の人たちの安くおいしいお米をつくる工夫や努力(品種改良)やアグリテック舟形の特性を生かした米づくりを調べ、農家の人々の思いを知る。(2) ・雪氷室を使って、出荷の時期をずらしているんじゃないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ○資料をもとに、広大な平地、豊かな水、日照時間、気温や降水量などの気候条件を調べ、米づくりに最適であることに気付く。【関心・資料活用—①】 ○資料をもとに、米づくりは、田の大型化、機械化、共同化、寒さや風に強い品種改良などにより生産量向上のための工夫や努力がされていることを理解している。 【関心・資料活用—②】 【知識・理解—①】 ◎生産量向上とコストダウンを目指していることが捉えられるようにする。 |
| | 安全なお米をつくるために必要なことを調べる。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ■アイガモ農法や低農薬、無農薬農法による安全な米づくりにより消費者の求めに応じるために工夫していることを調べる。(1) ・無農薬だと、手間がかかるんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○安全な米づくりは、手間がかかり、病気や虫がつく危険性が高いことを理解している。【知識・理解—②】 ◎値段は高くてもより安全を目指していることが捉えられるようにする。 |
| | 米づくり農家の抱える問題とこれからの米づくりを考える。(2) | <ul style="list-style-type: none"> ■生産者から消費者までどのようにして米が届くのか、生産にかかる費用のほか輸送などの費用について知る。(1) ■農家の人々は問題を解決するためにどのような取り組みをすべきか、今後の米づくりを考える。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ◆資料をもとに様々な問題に気付かせる。 ○日本の米づくりをこれからも続けていくための方策を、根拠をもとに話し合うことができる。 【思考・判断・表現—①】 ◎安全で継続的な米づくりができるか考えられるようにする。 |
| まとめる (2) | 今までの学習を振り返り、未来の米づくりを考えまとめる。(2) | <ul style="list-style-type: none"> ■消費者のニーズに応え、おいしく、安全で、安いお米を生産するための農家の工夫や努力をもとに、これからの農家の未来を考えまとめる。(1) ■農家同士が協力したらどうか。(1) | <ul style="list-style-type: none"> ○今後の米の生産について友だちの意見を参考にし、自分の言葉でまとめることができる。 【思考・判断・表現—②】 【関心・意欲・態度—②】 |

() 内は時間数

資料3 指導計画（14時間扱い）

2年生生活科「わくわく学校たんけん」～学校探検を通して1年生に学校の楽しさを伝える学習

